

『クリスマスの贈りもの』活動報告とお礼

あったかい心込めて

メリークリスマス

幸せなひと時過ごして



劇団仕込みの澄んだ歌声をプレゼントした横洲さん

イルミネーションがきらめく石巻地方では、24日のクリスマスイブを控え、イベントが盛り。住民同士が親睦を深め、また震災以来、支援を続けるボランティアたちが心温まるプレゼントを届けてくれる。どの会場にも和やかな声と笑顔の輪が広がっている。

贈りものを届ける会

継続支援に感謝の思い

大手住宅メーカーの三井ホーム(東京都新宿区)の社員有志などで構成する「被災家族に贈りものを届ける会」(豊島秀一代表)は17-18日、石巻市や女川町などの仮設団地計18カ所を回り、住民たちに絵本やカレンダー、お菓子や文房具などが詰まったクリスマスプレゼントを贈った。

三井ホームは震災直後、石巻地方などで一部の仮設住宅の施工を担った。震災で生活環境が変わってしまった住民の姿を目の当たりに

今年石巻市、女川町、福島県南相馬市の仮設団地を会員18人が訪問。このうち石巻市の南境第5団地集会所では17日夜、劇団四季出身の歌手、横洲かおるさんによるスペシャルソングショーが行われ、住民約20人が訪れた。

同団地自治会の大嶋三千代会長は「毎年訪問してくれて感謝の思いでいっぱい。心の支えになっていて。仮設を出て自立した後、元気で明るく健康に過ごすことが恩返しになると思う」と目を細めた。

2016. 12. 21
石巻日日新聞 新聞記事

2016. 12. 19
福島民報 新聞記事

仮設にサンタ出現

南相馬 三井ホームの有志ら

南相馬市鹿島区の小池第一仮設住宅の建設に携わった三井ホームなどの有志が十七日、同仮設住宅を訪れ、サンタクロース姿で住民にプレゼントを届けた。

同社の有志などでつくる「被災家族に贈りものを届ける会」が平成二十三年から続けている。今回は仮設住宅



住民にプレゼントを届ける氏家さん(右)

みなさんのあたたかいお気持ちが大きなチカラとなり、多くの家族と子どもたちに『クリスマスの贈りもの』を届けることができました。

被災地のみなさんから
ありがとう！いつもありがとう！
忘れないでくれてありがとう！と
たくさんの感謝をいただきました。

山形屋、花いっぱいIN、習志野台、石井食品、フタ
バ食品、ユーワールド、金の星社、スタジオリブ、野中、顧客ロイヤルティ協会

みなさまのおかげで、ことしも
応急仮設住宅に暮らす方たちに
『クリスマスの贈りもの』をお届けすることができました。

女川町・石巻市そして南相馬市の20団地の仮設住宅に暮らす
乳幼児から中学生までの 250人のこどもたちにひとりずつ
そして14か所の集会所へはみんなで使える贈りものを届けました。
20団地のうち三井ホームで建設した5団地の仮設住宅では
178世帯に一軒ずつ贈りものを届けました。

震災からもうすぐ6年が経ちます。
仮設住宅での暮らしは2・3年と考えていたのにもう6年も経ってしまう。
暮らしているみなさんさんの切実な声です。

どこに移っていくのか、移った先での生活は・・・
先を考えると不安に襲われるので、いまを懸命に生きることを大切にされています。

昨年も逢ったこどもたちは大きくなり
しっかりとした顔立ちをしていました。頼もしくなったこどもたちです。
素直なこどもたちでサンタとともに楽しんでくれました。

仮設住宅で生まれた、赤ちゃんや幼いこどもにも逢いました。
彼らは大震災を知りません。でも仮設住宅のなかですくすくと育っています。

ありがとう！ありがとう！と感謝の言葉ばかりでした。
こどもたちもわたしたちもいつも楽しみにしていて、と手を合わせられました。



石巻市の仮設住宅ではまだ2割の人たちが、南相馬市でもまだ3割の人たちが
女川町ではなんと7割の人たちが仮設住宅での生活を余儀なくされています。

女川駅と駅前の商店街が再建されましたが、住宅地のかたちはありません。
南相馬市では放射能の影響で元の家にも戻れません。

放射能の恐怖は消えていません。南相馬市のとなり浪江市の国道沿いは
通行した時に3マイクロシーベルトを超えていました。
自転車や2輪などの肌を露出している場合は通行できません。

まだまだの状況なのに
出逢った被災地のみなさんは
表情は穏やかで、やさしい瞳は輝いていました。

純真で素直なこどもたちはそのままでした。
またすこし大きくなっていました。
まだまだサンタを信じてくれています。

『クリスマスの贈りもの』を応援してくださった、
みなさんがサンタです。

